

# E C C 日 本 語 学 院

## 2016年度自己点検評価報告書

2017年6月1日  
ECC 日本語学院名古屋校  
自己評価委員会

### 1. 学校の教育目標

本学は日本語を学習する必要と意欲のある人を対象として、日本語を理解し、日本語を表現する能力を養成し、日本の現代文化についての理解を深め、国際的な相互理解を培うことを目標とする。

〔コースの目標〕

日本の大学、大学院または、専門学校に進学する人を含め、日本語を必要とする様々な目的を持つ人を対象とする。従って、読む・書く・聞く・話す、の本技能をバランスよく習得できるよう、総合的な日本語力の養成を目指す。

理解力の達成の目安として日本語能力試験N1合格レベルへの到達を目標とするが、理解力の養成のみではなく、表現力を含めた総合的な日本語力の習得を目指す。

#### 「総合教育機関ECC建学の理念」

本学は外国語教授を通じて、近代的なセンスと国際的な感覚をもった社会に实际的に活躍でき得る有用な人材を育成しようとするものである。以って国際間の人々の交流と相互理解を促進し、世界の文化向上とその恒久平和樹立に寄与したい。

### 2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

#### 1. 時代と学生からのニーズにあった日本語教育へのカリキュラムの見直し

日本での進学を望む学生に対する日本語教育から、日本、及び日本語に対する興味を育てる日本語教育への緩やかな変換を行なっていく。

(1) アウトプットにも重きをおいたカリキュラムを導入、日本語とともに、プレゼンテーション能力や、対話能力を養うことができることを目的に。

(2) 学生が学習を続けたいと考える、次の段階が見えるカリキュラム

(3) 日本文化が体験できるカリキュラム

#### 2. 学生への進学指導の強化

高等教育機関への進学を希望する学生には、100パーセントの進学率達成より高い希望校への進学を果せるよう指導を行う。

(1) 集団進路説明会の段階的实施

(2) 総合科目・数学等多科目の授業開講

(3) 個別進路相談の実施

#### 3. ECCの教育目標を達成するための生徒募集と学生指導

ECCの教育目標と学習目標が一致する学習者の募集を行なう

(1) ECCの教育方針を入学希望者に徹底告知。できる限り面接、スカイプにて申請希望者とその保護者に説明。その後、書類の提出を経て、学習者を慎重に決定する。

(2) 7ヶ国の学生については、経費支弁者とも電話面談を行いECCの方針の理解を求める。

(3) 入学オリエンテーションにおいて再度、ECCの学習方針、指導方針を再確認。

### 3. 評価項目の達成及び取組状況

#### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
1 学校の理念・教育目標は定められているか	④ 3 2 1
2 本年度の教育目標・計画は、定められているか	④ 3 2 1
3 学校の理念・教育目標は教職員に周知されているか	④ 3 2 1
4 学校の理念・教育目標を入学を検討している学生・保護者、留学仲介業者に告知する努力をしているか周知されているか	4 ③ 2 1

#### 3 目的・理念・将来構想等の周知徹底について

学生・教職員に対しては、総合教育機関 ECC の建学の理念・社是・経営理念について、新年度の開始前に行われる全体ミーティングおよび、非常勤講師に対して行なわれる講師便覧説明会において周知徹底している。

学校の学習方針・指導方針は、教職員については、年度初めに周知徹底している。学生・保護者については、入学前に面接、スカイプ面接を通じて説明する努力をしているが、一部実施していない国籍もある。今後もホームページ、SNS などを通じて、広く知っていただくように図っていきたい。

#### (2) 学校組織

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
5 設置者・設置代表者・経営担当役員の適合性	④ 3 2 1
6 組織が適切に運営されているか	④ 3 2 1
7 校長・教務主任の適合性はあるか	④ 3 2 1
8 校長・教務主任・専任教員・非常勤講師の職務内容と責任基準は明確か	4 ③ 2 1
9 教育目標達成のための知識と能力があるか	④ 3 2 1
10 生活指導担当者の職務内容と責任基準は明確か	④ 3 2 1
11 入管事務担当者の職務内容と責任基準	④ 3 2 1
12 取次申請者の配置	④ 3 2 1
13 教員の採用条件と雇用条件が明確である	④ 3 2 1
14 職員の採用条件と雇用条件が明確である	④ 3 2 1
15 教員の研修が行なわれている	4 ③ 2 1
16 職員の研修が行なわれている	4 ③ 2 1

#### 学校組織について

告示校の条件にあう校長・生活指導担当者・入管事務担当者・教務主任・専任講師・非常勤講師を配置している。教員の条件は、告示校条件に合わせて変更し、一部教員の入れ替えを行なった。常勤講師、非常勤講師とも告示校条件以上の人数を確保しており、余裕のある教員運営が実現している。

職員の研修については、株式会社 ECC の社員としての研修が行なわれており、教員については、教務研修担当が、すべての授業の授業オブザーブを行い、教員の授業の見直しを行なっている。問題点が

あった場合は、修正の指導を行い、再度修正が行なわれたかの確認を行なっている。また、日本語学院教務主宰の研修を実施しているほか、外部主宰の研修にも当校の教室を会場として提供し、当校の教員が様々な研修に参加しやすい環境を整えている。

### (3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
17 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4 ③ 2 1
18 修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
19 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
20 授業評価の実施・評価体制はあるか	4 ③ 2 1
21 成績評価・単位認定、進級・修了判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
22 進学に対する指導体制はあるか	④ 3 2 1
23 告示校条件を満たす教員数を確保しているか	④ 3 2 1
24 告示校条件を満たす専任講師を確保しているか	④ 3 2 1
25 適切なクラス編成を行なっているか	④ 3 2 1
26 教員に対して、指導に必要な情報を伝達しているか	4 ③ 2 1
27 修了証書授与の条件について、説明、明示されているか	④ 3 2 1
28 授業にあたってはロールブックに出席状況、成績状況が記載されているか	④ 3 2 1
29 授業にあたって学生からの要望を聞く場を設けているか	4 ③ 2 1

### 教育活動

カリキュラムの編成に於いては、まず、レベルごとの目標を設定し、学習者の学習レベルに応じ体系的、段階的に、細部まで精密に練り上げた進度表を作成している。そしてカリキュラム運用時には学習者のレベルに合うよう、また学習者の知的好奇心を刺激し続けるよう、微調整を続けながら授業を実施している。更に昨年からは進学希望学生のニーズの多様化に伴い、数学と総合科目の選択授業を用意した。

さらに講師の授業力や学生指導力に対する評価もシステムとして整備してきた。講師採用時には、必要要件を備えた講師を採用するための高いレベルの筆記、面接、模擬授業、教案作成の試験を実施し、知識とクラス運営力と情熱のある講師の採用に努めている。採用後、授業を担当するまで教案研修などを実施し、授業担当開始後も、研修担当者が定期的にクラスオブザーブを実施、授業後に講師と面談した上で、改善すべき点がある場合は具体的に伝えた上で再度オブザーブをするというような徹底した研修システムになっている。

### (4) 成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
30 日本語能力試験の合格率の向上を図り、その結果を把握しているか	④ 3 2 1
31 進学希望者の全員進学を目指し、その結果を把握しているか	④ 3 2 1
32 日本留学試験の成績向上を図り、その結果を把握しているか	4 ③ 2 1
33 その他学生が望む卒業後進路についてのサポート体制があるか	4 ③ 2 1

## 成果

校外で実施される日本留学試験や日本語能力試験で毎年順調に成果を上げている。

試験分析に基づき戦略的に組まれたカリキュラムとベテランの教授陣による対策授業により、毎年多数の学生が日本留学試験の高得点や日本語能力試験N1級を取得している。またそこから、学生の進路決定もスムーズに行われている。進学希望者の進学率は100%であり、国公立大学や有名私立大学の進学実績に繋がっている事も校外での評価と言える。また就職希望者は少ないがN1合格を就職の条件とする企業も多いため、就職にも有利になってくると思われる。

「出席しなければ学力は伸びない」という考えのもと講師全員が出席率向上のための出席指導を徹底して行った結果、多数の皆勤賞を含め、全体的に非常に高い出席率を保っている。出席率平均98%台であった。出席は全ての基本であり、このことが学習成果にも繋がっていることは、先に挙げた各種能力試験でも実証されている。

進学実績、外部試験結果等の教育成果は毎年度データとして把握し、学校案内書やホームページ等に掲載している

## (5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
34 入学時に入国オリエンテーションを行い入管知識・日本の法律について指導しているか	④ 3 2 1
35 入学時に生活オリエンテーションを行い学生生活について指導をしているか	④ 3 2 1
36 進路・就職に関する担当者は決まっているか	④ 3 2 1
37 進学希望の学生に対して、進路決定までのながれについて説明がされている	④ 3 2 1
38 学生相談に関する体制は整備されているか	4 ③ 2 1
39 学生の健康診断は定期的に行なっているか	④ 3 2 1
40 新入生に対しての住宅の提供は十分に行なわれているか	④ 3 2 1
41 アルバイトに関する指導及び支援を行っているか	④ 3 2 1
42 交通事故等での保険等の手続き支援を行っているか	④ 3 2 1

### 34 35 入国オリエンテーション・入学オリエンテーション

入学時に入国オリエンテーションと入学オリエンテーションを実施している。

入国オリエンテーションは、入国管理に関する知識を指導し、日本の法律のうち学生に直接関係あるものについて指導を行っている。オリエンテーション後に区役所に行き、在留カードの登録、健康保険の加入、銀行に行き銀行口座の開設を一緒に行なっている。

入学オリエンテーションは、学校生活に関するものを指導している。遅刻・欠席の扱いなどのほか、災害時の行動についても指導している。

### 36 37 進路・就職支援体制

進学希望者は、入学申請時より、日本に来て可能な希望進路であるか確認を行なっている。入学後すぐに母語で進学実現までの流れの説明を行い、不安を解消するとともに、目標設定を行なわせている。学生が希望する進路への進学を果たすまで、根気良く指導し、成果をあげている。

### 39 健康診断の実施

入学後1ヶ月以内に健康診断を実施、さらにその1年後にも実施している。

## (6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
43 校舎校地は告示校の条件を満たしている	④ 3 2 1
44 教室は、学習に適した環境である	4 ③ 2 1
45 自習室が備わっている	4 ③ 2 1
46 学生用の図書が整備されている	4 ③ 2 1
47 防災に対する体制は、整備されているか	4 ③ 2 1
48 避難訓練は定期的に行われているか	④ 3 2 1
49 学校近隣の避難所などの情報提供は行なわれているか	④ 3 2 1

### 47 48 49 防災

入学時のオリエンテーションで、地震他の災害時についての避難行動についての説明を行なっている。学校近隣の避難所への地図もオリエンテーションにて配布している。年に一度は全校での防災訓練を行なっている。

## (7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
50 理念・教育目標に沿った学生の受け入れ方針を決め、募集活動を行なっているか	④ 3 2 1
51 入学希望者に学校について、入学手続きについての情報が提供されているか	④ 3 2 1
52 入学選考料・入学金・学費についての金額、納付時期について説明がされている	4 ③ 2 1
53 学費の返却規定が定められ、募集要項・ホームページ等に記載されている	4 ③ 2 1
54 海外のエージェントの選択にあたっては慎重に行なわれているか	4 ③ 2 1
55 入学選考にあたっては、選考方法が定められているか	④ 3 2 1
56 提出された書類は慎重に審査を行なっているか	④ 3 2 1

### 50 ～ 54 学生募集活動について

学生募集広報活動において、ホームページ、パンフレットなどへの出稿内容や説明表現についてはその真実性、明瞭性、公平性、法令遵守等について、担当する広報担当が常時配慮を行うとともに、入学希望者に十分な判断材料を提供できるよう実施しており、学内でのチェック体制は整備されている。

応募者に対しては、一部の国籍を除きほぼ全員に直接面接、スカイプ面接を行い、学校についての情報を伝達するとともに日本語学習の準備状況を確認し、入学までの学習についての指導を行っている。ほぼ、全員に面接を行うことで、学生の質が上がった。

7ヶ国からの学生については経費支弁者の職場に在職の確認をするとともに経費支弁者とも話し、経費支弁の確認を行なっている。

海外エージェントの選択については、7ヶ国については、慎重に選定している。当校の運営方針に理解のあることを優先し、当然ながら学生自身の条件が当校の条件に当てはまらなければ、エージェントの推薦があっても受け入れは行わない。

入国管理局の交付状況もよい。

## 51 学納金について

入学希望者や保護者に対し、募集要項やその説明の機会を通じて学費や諸経費の説明を行っている。

### (8) 入国・在留関係に関する指導及び支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
57 入管業務担当者は、研修に出席すること等により新しい情報を取得している。	4 ③ 2 1
58 入管法上の留意点について学生に指導している	④ 3 2 1
59 在留に関する情報を学生に伝達している	④ 3 2 1
60 新生が入管法上の留意点について学生に指導している	④ 3 2 1
61 新生が入管法上の留意点について学生に指導している	④ 3 2 1
62 帰国を控えた学生に帰国時の手続きについて指導をしている	④ 3 2 1
63 過去3年間、不法在留者、資格活動違反者を発生させていない	④ 3 2 1

### 在留管理についての指導

入国した学生には、まず入国オリエンテーションを行い、入管法上の手続きについて指導。スタッフが伴って在留カードの住所登録、健康保険の加入、銀行口座の開設を行なっている。資格外活動についての注意も行き、活動状況は把握している。ビザの更新時には、経費支弁者からの経費支弁書に記載されたとおりの送金の無い学生には、学校が経費支弁者に電話連絡を行い、送金を促している。日本語学習終了時の手続きや、進学時の手続きについても説明会を行い、入管法に則った手続きに漏れが無いように最大限の指導に努めている。

入国管理局により、日本語学校の運営が指導されることになるため、今後一層入管業務の学習が必要と思われる。

### (9) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
64 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
65 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
66 財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
67 財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

### 財務状況全般

中長期的に安定した経営基盤を構築するために、経費削減を図る一方で、設備の充実並びに教務体制の強化を図りバランスのとれた経営を行っている。財務状況については、会計上必要な各種財務資料は勿論、経営状況を把握するための各種数値が適時引用可能となる基幹システムを整備し、運営基盤を支えている。予算・収支については、取締役会で承認された中期計画、年度計画に基づき執行している。毎月実績ベースと比較し、妥当に執行されるように確認しながら行われている。内部監査室及び監査役により会計監査が行われており、取締役会・株主総会にて報告している。

#### (10) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
68 関係法令等の遵守と適正な運営がなされているか	4 ③ 2 1
69 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4 ③ 2 1
70 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4 ③ 2 1
71 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

#### 法令等の遵守

ECCグループ全員が共有すべき普遍価値として「コンプライアンス・ガイドライン」が定められ、それらを誠実に実行するための行動基準として「役員・従業員行動規範」が明文化されている。また、役員をメンバーとする「コンプライアンス委員会」、「リスク管理委員会」、「情報セキュリティ委員会」も設置し、法律の専門家を顧問として配置するなど、法令等を遵守する体制を構築している。個人情報の取り扱いについては、「個人情報保護に関する基本方針」「情報セキュリティ規程」「個人情報管理規程」を策定し、情報流出等を防止する厳重なセキュリティ対策を維持するとともに、個人情報取扱マニュアルをもとにした従業員への教育を継続していく。

## 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

### 1. 時代と学生からのニーズにあった日本語教育へのカリキュラムの見直し

学習の中に活動を増やし、一部教科書の変更も行なった。

学生が、活発に授業に参加できる授業時間が増え、日本語の発話量も増えている。

### 2. 学生の進学指導の強化について

入学時にすぐにスケジュール確認のための進路指導を行い、早めに学生の希望を把握し、希望する進路への入学を果せるべく指導を行った。

留学試験の為の「総合科目」と「数学」も初めて実施し、予想を超える多くの学生が受講した。

進学を希望する学生はほぼ希望通りに進学を果している。

### 3. ECCの教育目標を達成するための生徒募集と学生指導

学校運営を行う上で重要な経営基盤となる学生募集においては入学者数が増加し、安定している。国籍比率も好ましい形で、多国籍化している。いろいろな国から、様々な目的で日本語を学ぼうと真剣に考えている人が当校を選んでくれていると見ている。年4回の入学時を設定しているが、2016年は最後の1月学期は募集が出来ず、2017年も同様となる見込みである。入国管理局での在留資格認定証明書の交付率も高い。

2年前より、ほぼ全員の入学希望者についてもスカイプによる入学面談を実施始めたが、成果が出始めた。学生の質が目に見えてあがってきた。入学選考のハードルを上げることは、営業面からマイナスに働くことがあるが、よい結果を出すことが出来ている。

学生の出席率は、平均98%となり非常に高い結果となった。比例して外部の各種試験、進学の実績も高い。しかしながら、本校には日本語を勉強して帰国し、母国で生かそうという学習者も多い。そのような学生の満足度をはかることは出来ていないが、おおむね非常に満足して学習を終えていると考えている。彼らの満足度をはかることが今後の課題であると考えている。

以前は、進学希望者中心の学生構成だったが、現在は、進学希望者は全体の半分程度になっている。進学をしない学生が何を求めて日本に来ているか、どのような日本語学習がふさわしいのかを模索していくことが今後の課題となってくると思われる。本校での学習を終えて、就職を希望する学生に対しての指導について検討していく必要がある。